・保育終了後の園庭開放の様子、保育室の環境、掲示物等を説明しながら園の施設全般を見学してもらった。
・園児の降園後、教員が明日の保育の準備等、教材研究をしている様子も合わせて見てもらい、よりよい教育活動を行うための教員の役割について認識を深めてもらえるよう説明した。
・DVD「『学校評価』とは？」を視聴した。
・第３回アンケート実施
・園の重点目標としている幼・小連携関連の行事や保育活動（地域の神社や園周辺への秋見つけ、Ｆ公園・大仏殿・W山への合同遠足）について認識を深めてもらうよう、現況を説明した。その後、次のような感想を文章でいただいた。

【感想】
・季節ごとに拝見させていただき、本当に私自身の心が癒される。文化遺産や自然に恵まれたＦ市に育つこどもたちは本当に幸せだと思う。そしてそれらの恵まれた環境を教材として上手に取り入れてくださっている先生方に感謝する。幼い頃に経験したことや作ったものは、大きくなっても記憶のどこからか想いだされ、宝物のような働きがあると思う。
・小学校体育館での幼・小合同活動の制作の様子を拝見できたのも有意義であった。今後も幼・小連携を継続し、幼稚園でのこのような教育活動の企画を是非、続けていってほしい。

〇第３回学校関係者評価委員会（第４回評議員会）
平成21年12月９日㈬ 10：00～11：30　出席：４名（保護者代表欠席）
・評価委員に、園に送られてきたハンドブック２冊｛「どんなところ？幼稚園」・「「学校評価」とは？」｝を配布した。

☆評価委員会の様子
・子育て支援事業「Ｓクラブ」の開催日に評価委員会を設定し、登園して作品展を鑑賞する親子の様子も見てもらった。
・評価委員会では、新型インフルエンザの罹患状況と疾病予防のための取組について質問があった。
・新型インフルエンザ感染拡大防止のため学級閉鎖が相次いだこと、それに伴い園行事等は当初の計画を調整し、様々な教育活動を延期しながら実施したことを園長より報告した。そのため、二学期末に行う予定だった保護者へのアンケートも、三学期当初に実施するということを了承していただいた。
・自己評価についての資料も、準備できなかったため、写真などの掲示物や園内作品展等を見てもらう中で、今までの教育活動を振り返り、園長から教育活動、幼稚園運営、家庭・地域との連携、子育て支援等、園の重点目標などについて、成果や課題等を話した。
・園の重点目標について自由記述で意見、感想等を書いてもらった。

【意見・感想】
・幼児の指導の基本、健康、人間関係、環境、言葉、表現の五つの領域があるがどの指導案にもそれぞれの要素がうまく取り入れられ、しかも一定の時間内にそれぞれの事柄を消化している。各組の担任の先生の日ごろのご苦労が伺える。
・人は環境により、よりよい人格が形成されるといわれるが、本園は、整理整頓はもと

より自然の変化を十分に取り入れ、教室を拝見させていただいた私も心が温かくなる思いがした。

・「Ｓクラブ活動」は「礼で始まり、礼で終わる」作法を学べるのでボランティアの協力で継続していってほしい。

☆学校評価保護者アンケートの実施

・学校評価アンケートを実施する前に、保護者全員に、学校評価は幼稚園改善に結びつけるために実施するということ、保護者アンケートは保護者と共に園の教育を考えることで、よりよい教育内容の実践が図れるようにするためのものであるということなど、アンケートの趣旨を説明した。

・アンケートの趣旨説明によって、評価項目の理解がより深まり、短期間での回収となったが、全員から記名した回答をいただいた。

☆園の自己評価の実施について

・評価項目や評価指標は「幼稚園における学校評価ガイドライン」を参考に、園長が中心となって考え、教員全員で園として特色ある園づくりに関する項目も検討して設定した。

・教員一人一人の自己評価シートはそれぞれの職責において評価しているため、それぞれの評価基準に基づいて成果及び課題、改善点などが記載されていた。自己評価は、教職員が評価基準の共通理解を図ったうえで実施することが大事であると痛感した。

〇学校関係者評価委員会第４回会議（第５回評議員会）

２月３日㈬ 14：00～16：00　　出席：４名

・園の自己評価結果と保護者アンケートの結果を評価委員に公表し、園長が再度、幼稚園の教育目標、運営方針、本年度の重点目標・具体的目標について説明した。その後、下記の通り評価項目と評価指標、それぞれの評価結果とその反省・評価、成果と課題、改善策について説明した。

〔教育活動の項目〕

・基本的な生活習慣の形成　・環境を通して行う活動の充実　・一人一人の発達の特性に応じた指導　・遊びを通しての総合的な指導　・幼小連携への取組・食育の取組

〔幼稚園運営の項目〕

・園経営目標　・方針の共通理解　・園務分掌の構成と機能　・職場の人間関係　・園内研修の実施体制　・安全・防災計画の作成と実施状況　・危機管理マニュアルの作成と活用状況　・園舎内外の環境美化の取組

〔家庭・地域との連携の項目〕

・情報提供　・個人情報保護の状況　・地域の教育資源、地域ボランティア等外部人材の活用状況　・子育て支援

〇自己評価・学校関係者評価を実施した成果・課題

・幼稚園運営においては、人と人との関わりや協力体制、各自の個人としての責任の遂行等、職員が互いに認め合い、支えあい、切磋琢磨してそれぞれの能力を高め教育を保障していくことが教育の改善につながると思われる。学校関係者評価の実施に向けて、教職員が個々の立場で参画することで、学校評価に対する教職員の意識を高めることができた。

・自己評価の評価指標については、学校評価の客観性を高めるためにできるだけ数値項目を入れて達成度を明確にすることが望ましいのではないかと思われる。

☆学校関係者評価委員にも次の項目で評価をしていただいた。

〔教育活動〕　・教育目標、教育課程　・教育内容
〔幼稚園運営〕　・組織運営　・安全管理　・保健管理　・教育環境整備
〔家庭・地域との連携〕　・情報提供　・保護者、地域との連携　・子育て支援

☆自己評価に基づいた学校関係者評価について下記の意見をいただいた。

・先生方は教育目標を柱に園長先生を中心に互いに協調し心を一つにして子どもの教育に当たっている。また、一人一人の子どもに対してきめ細かく関わっている。
・積極的に保護者との連携が図られている。
・少子化・核家族化のため幼児教育が重要だと思う。幼稚園での教育、園児同士との遊びを通して協調性、協力心、仲間意識が芽生え社会性の基本を学び就学への準備ができると考える。素直な心を持ち続けて明るく育ってほしい。子どもの躾は家庭で保護者の責任で行うのが基本である。

⑤まとめ

・「幼稚園における学校関係者評価実施のためのガイドブック」をいただき、大まかな流れを把握し、それに基づいて本園なりに計画をたて実施するようにしてきた。また、評価委員の方には会議ごとに、内容について理解していただけるように働きかけてきた。園の重点目標としている内容についても意見をもらえたので今後の参考にしていきたい。
・DVD「どんなところ？幼稚園」は幼稚園教育がとてもわかりやすくまとめられているため、評価委員の方々だけでなく、教員の研修にも使いたいと思った。一方、DVD「「学校評価」とは？」の内容は専門用語も多く、評価委員に理解していただけたかどうかと心配だった。
・DVDとガイドブックがあることによって、評価委員の方々に基本的な認識を共通してもっていただくことができたと感じた。
・学校関係者評価を実施し、この研修を通して自己評価の結果や改善点を公表し、評価委員に意見を伺う機会をもつことで、園経営を振り返り、教育活動の改善や園の組織の活性化を図るだけでなく、幼稚園の教育内容や運営の改善・充実を図り教育の質の向上につなげていくことができると思われる。
・２月19日には保護者対象とした教育活動の報告会を実施する中で、保護者アンケートの結果報告と学校関係者評価委員の方々による意見を公表し、よりよい園教育と園運営を推進していけるよう保護者に理解と協力を求める計画である。地域に開かれた園づくりを目指し次年度へとつなげていきたい。
・評価委員に小・中学校の校長先生にも加わってもらえると、より具体的な学校評価につながったのではないかと感じた。しかし、評価委員の人数が増えると日程調整が難しくなる。効果的な評価委員の選出も、よりよい学校評価を行うための大切な要素であると考える。
・本園では、これまで教員の自己評価も簡単な形式で、具体的な指標が設定されていなかった。そのため、この研修を機会に具体的な指標について、「幼稚園における学校評価ガイドライン」を参考にして設定することができた。来年度は、本年度の反省に立って指標を改善し、より良い自己評価を実施したいと考えている。このような機会が得られたことは園にとって大変プラスになったと感謝している。

第３章　今後のプログラムの改善に向けて

１．実施者の教材に対する意義や問題点の認識（アンケート調査）

⑴　研修１「幼稚園の基本」　研修１後アンケート

研修１「幼稚園の基本」では、DVD、ハンドブック「どんなところ？幼稚園」、ガイドブックを用いた研修を行った。その後、「幼稚園における学校関係者評価を実施してくださる先生方へ」と題したアンケートを用いて、それぞれの教材についての意見や質問、また、DVDを用いた以外に園独自で付け加えた話の内容等について、自由記述形式で回答を求めた。本アンケートは各幼稚園につき1枚配布しており、各園の学校関係者評価実施者が回答することとなっている。

本アンケートの設問は全部で４つである。１つ目は『Ⅰ．DVDについて』、２つ目は『Ⅱ．ハンドブック「どんなところ？幼稚園」について』、３つ目は『Ⅲ．ガイドブックについて』、４つ目は『Ⅳ．DVDの後に園独自の内容として、お話になった内容の概要を以下にお書きください。』である。Ⅰ～Ⅳの設問に関しては、本アンケートの冒頭で『ご意見や、ご質問等、何でもお書き下さい。』と提示している。

得られた結果の分析については、自由記述の回答の内容を、カテゴリー化した。全回答中、そのカテゴリーに分類されたものの割合を示した。１つの園においても複数の文章によって意見等を記述していたり、１つの文章に内容の異なる意見が記述されたりしていたことから、同じ回答者による記述でも、内容によって異なる別の意見として分類をした。以下、各設問の結果を示す。

①「DVDについて」の結果と考察

この設問においては、23園から回答が得られており、意見・質問等の記述はのべ50個であった。これらを10のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３-１-１に示す。

研修１のDVDに関する意見については、割合の大きい順に、「内容がよかった」(32.0%)、「内容への具体的な改善点の指摘」(16.0%)、「内容がよくなかった」(12.0%)、「時間が長く感じた」(12.0%)、「教材としての活用のしやすさを感じた」(12.0%)、「動画を入れたほうがいい」(6.0%)、「説明の速さがちょうどよい」(2.0%)、「説明の速さが遅い」(2.0%)、「音声が聞き取りにくかった(音の高さ)」(2.0%)、「その他」(4.0%)であった。

最も割合の大きかった「内容がよかった」というカテゴリーには、「大変わかりやすい内容だった」という、全体を肯定的に評価している意見もあれば、「幼稚園が義務教育の始まりであるという点が分かりやすく説明されていてよかった」というような、理由を挙げた上で肯定的な評価をしている意見も含まれていた。

次に割合の大きかった「内容への具体的な改善点の指摘」というカテゴリーには、「“幼稚園は学校です”のくだりは、保育所との比較があって初めて生きてくるという意見がありました」。「『幼稚園』といいながら、『小学校』の教科教育を除いた内容との違いがはっきりしないように思った」などの、具体的なポイントに対する指摘が含まれていた。

「内容がよくなかった」というカテゴリーには、「内容がよかった」というカテゴリー同様に、「内容がわかりにくい」、「難しかった」というような全体に対する否定的評価が目立った。

また、「その他」というカテゴリーには、DVD教材を使った評価をどのように理解して受け止めればいいのだろうか、また、幼児教育に携わっていない人がDVDを見てどう感じるのだろうか、といった、直接質問として投げかけているわけではないが、疑問に抱いたことをそのまま記述していたものが含まれていた。

表３-１-１　研修１のDVDに対する意見等の種類と割合

内容がよかった	32.0%
内容への具体的な改善点の指摘	16.0%
内容がよくなかった	12.0%
時間が長く感じた	12.0%
教材としての活用のしやすさを感じた	12.0%
動画を入れたほうがいい	6.0%
説明の速さがちょうどよい	2.0%
説明の速さが遅い	2.0%
音声が聞き取りにくかった（音の高さ）	2.0%
その他	4.0%
計	100.0%

上位２つのカテゴリーからは、全体的にみても具体的な理由やポイントを挙げた上での肯定的意見や、具体的な改善点に関する意見が多いことがわかる。このような具体的な意見は、取り組む側の意欲的な姿勢があったからこそ出てきた意見だと考えられ、否定的な視点であっても具体的な改善点を指摘するなり、DVDを使用した研修に強い関心をもった園が多かったことが推測される。

説明の速さに関しては、「ちょうどよい」と感じた園と、「遅い」と感じた園の割合が同じであったことから、個人差によって捉え方が異なることが予想される。全体を通して、幼児教育に携わっている人と、そうでない人によって理解度が異なるのではないか、という意見も多かったことから、理解度や説明の速さの感じ方には、見る側の知識量も関係してくることが予想される。

②「ハンドブック『どんなところ？幼稚園』について」の結果と考察

この設問においては、20園から回答が得られており、意見・質問等の記述はのべ28個であっ

た。これらを９のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３－１－２に示す。

研修１のハンドブックに関する意見については、割合の大きい順に、「内容がよかった」(28.6%)、「DVDとあわせて使うことで効果が増した」(17.9%)、「改善点がある」(14.3%)、「DVDとは異なる目的で使用できた」(10.7%)、「さらに簡素化したハンドブックが欲しい」(7.1%)、「今後も参考・活用していきたい」(7.1%)、「DVDと同じ感想」(3.6%)、「必要はない(DVDのみでよかった)」(3.6%)、「その他」(7.1%)であった。

表３－１－２　研修１のハンドブックに対する意見等の種類と割合

内容がよかった	28.6%
DVDとあわせて使うことで効果が増した	17.9%
改善点がある	14.3%
DVDとは異なる目的で使用できた	10.7%
さらに簡素化したハンドブックが欲しい	7.1%
今後も参考・活用していきたい	7.1%
DVDと同じ感想	3.6%
必要はない（DVDのみでよかった）	3.6%
その他	7.1%
計	100.0%

最も割合の大きかった「内容がよかった」というカテゴリーには、DVDの補足説明が書いてあったことや、図が入っていたことがわかりやすさにつながったという意見や、幼稚園についてあまり知らない人にもわかりやすいと思うというような意見など、理解のしやすさを評価する記述が含まれた。

３番目に割合の大きかった「改善点がある」というカテゴリーには、言葉を漢字に変換してあったほうがわかりやすかったという指摘や、保育者がどのような援助をしているのかの事例があったほうがよかったという指摘が含まれていた。

全体的には、内容に対する肯定的な意見だけでなく、DVDとの併用の効果や、DVDと比較した意見が多かった。DVDとの併用に関する具体的な意見としては、ハンドブックにDVDの補足説明が書いてあることで内容の理解度が増す効果についての記述が主であった。DVDとの比較についての意見は「DVDとは異なる目的で使用できた」というカテゴリーに含まれており、DVDを最後まで見ることができなかった人に対してもハンドブックを渡すことで内容を補えるというような意見が主であった。いずれにしろ、DVDとハンドブックの両方があることで、相互的な効果や補助的な役割があったことがわかった。

また、簡易版のハンドブックが欲しいという意見や、今後も活用していきたいという意見か

らは、園がこのハンドブックを常に重宝していたいという、ハンドブックに対する肯定的な姿勢が読み取れる。

③「ガイドブックについて」の結果と考察

この設問においては、22園から回答が得られており、意見・質問等の記述はのべ24個であった。これらを５のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３－１－３に示す。

研修のガイドブックに関する意見については、割合の大きい順に、「内容がよかった」(66.6%)、「今後も参考・活用していきたい」(16.7%)、「改善点がある」(8.3%)、「DVDと同じ感想」(4.2%)、「その他」(4.2%)であった。

表３－１－３　ガイドブックに対する意見等の種類と割合

内容がよかった	66.6%
今後も参考・活用していきたい	16.7%
改善点がある	8.3%
DVDと同じ感想	4.2%
その他	4.2%
計	100.0%

最も割合の大きかった「内容がよかった」というカテゴリーには、「一年の流れが整理され、とてもわかりやすい」というような、わかりやすさに関する肯定的評価や、「会の持ち方にその園独自の創意工夫ができるように柔軟性を示している点が良い」というような、具体的なポイントに対する肯定的評価などが含まれていた。

次に割合の大きかった「今後も参考・活用していきたい」というカテゴリーには、学校評価の目的や実施方法等について、改めて考えるきっかけとなったという意見が基盤となった上で、今後も「参考にしていきたい」「活用していきたい」と述べている意見が主であった。

改善点に関しては、ガイドラインのように進めることを難しいと感じているという内容と共に、「配布する資料の例が具体的になっていた方が、戸惑いも少ないと思う」といった具体的な指摘が述べられていた。

④DVDの後に園独自に付加した内容

この設問においては、22園から回答が得られており、意見・質問等の記述はのべ34個であった。これらを11のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３－１－４に示す。

研修１のDVDの後に園独自の内容として付け加えた内容の概要については、割合の大きい順に、「園について」(35.3%)、「学校評価に対する園の意見」(11.8%)、「特になかった」

(8.8%)、「５領域について」(8.8%)、「今回の調査の目的について」(5.9%)、「園で現在行っている具体的な取り組みについて」(5.9%)、「DVDについて再度説明・鑑賞」(5.9%)、「これまでの園の取り組みへの振り返りと成果について」(5.9%)、「教員研修について」(2.9%)、「幼児教育全体の現状について」(2.9%)、「その他」(5.9%)であった。

表３-１-４　DVDの後に園独自の内容として付け加えたことの種類と割合

園について（教育理念・教育目標・特色・普段の活動内容等）	35.3%
学校評価に対する園の意見	11.8%
特に付け足さなかった	8.8%
５領域について（５領域を重視した保育の説明）	8.8%
今回の調査の目的について	5.9%
園で現在行っている具体的な取り組みについて （自然教育や食農教育・体育活動やエコ活動）	5.9%
DVDについて再度説明・鑑賞	5.9%
これまでの園の取り組みへの振り返りと成果について	5.9%
教員研修について	2.9%
幼児教育全体の現状について	2.9%
その他	5.9%
計	100.0%

最も大きい割合だった「園について」というカテゴリーには、その園の教育理念や目標、特色、普段の活動の内容といった、いわゆる、園の紹介といった内容が含まれた。

次に割合の大きかった「学校評価に対する園の意見」というカテゴリーには、「今回の教育関係者からの考え方や意見をうかがう機会を設け、よりよい幼児教育を作り上げていかないといけない」というような意見を話した等、その園が学校評価についてどのような考え方を持っているか、またどのように進めていきたいかについての話を付け加えたという記述が含まれていた。

その他にも、実際に園独自で行っている、自然教育や体育活動についての話や、昨年度までの取り組みとその振り返りについての話など、上位のカテゴリーも含め、全体的にその園特有の活動をアピールしたような記述が多く見られた。

（岩立京子）

⑵　研修２「学校関係者評価について」　研修２後アンケート

研修２「学校関係者評価について」では、DVD、ハンドブック「「学校評価」とは？」を用いた研修を行った。研修後、「幼稚園における学校関係者評価を実施して下さる先生方へ」と題したアンケートを用いて、それぞれの教材についての意見や質問、また、DVDを用いた以外で園独自に付け加えた話の内容等について、自由記述形式で回答を求めた。本アンケートは各幼稚園につき1枚配布しており、各園の学校関係者評価の実施者が回答することとなっている。

本アンケートの設問は全部で３つである。１つ目は『Ⅰ．DVDについて』、２つ目は『ハンドブック「「学校評価」とは？」について』、３つ目は『DVDの後に園独自の内容として、付加した内容』である。ⅠとⅡの設問に関しては、本アンケートの冒頭で、『ご意見や、ご質問等頂戴したいと思います。何でもお書きください。』と提示した。

得られた結果の分析については、自由記述の回答の内容を、カテゴリー化した。全回答中、そのカテゴリーに分類されたものの割合を示した。１つの園においても複数の文章によって意見等を記述していたり、１つの文章に内容の異なる意見が記述されたりしていたことから、同じ回答者による記述でも、内容によって異なる別の意見として分類をした。以下、各設問の結果を示す。

①「DVDについて」の結果と考察

この設問においては、25園から回答が得られており、意見・質問等の記述はのべ32個であった。これらを10のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３－１－５に示す。

研修２のDVDに関する意見については、割合の大きい順に、「内容がよかった」（40.7%）、「内容がよくなかった」（28.1%）、「説明の速さがちょうどよい」（6.3%）、「動画を入れたほうがいい」（6.3%）、「時間がちょうどよい」（3.1%）、「時間が長く感じた」（3.1%）、「説明の速さが遅い」（3.1%）、「音声自体が聞き取りにくかった」（3.1%）、「２回見てもらうのは負担だと思う」（3.1%）、「その他」（3.1%）であった。

最も割合の大きかった「内容がよかった」というカテゴリーには、「学校評価委員の仕事内容がわかりやすかった」、「構成がわかりやすかった」等の具体的な肯定的評価が主に含まれていた。特に、「項目ごとに内容がわかりやすく整理されている」というような意見をはじめとする、構成に関する肯定的な記述が目立った。

次に割合の大きかった「内容がよくなかった」というカテゴリーには、難しく感じるという内容や、文章だけで物足りないという内容の記述が多く、そのような意見と共に、わかりやすくするために「動画を入れた方がいい」という意見を述べている園もあった。

表３-１-５　研修２のDVDに対する意見等の種類と割合

内容がよかった	40.7%
内容がよくなかった	28.1%
説明の速さがちょうどよい	6.3%
動画を入れたほうがいい	6.3%
時間がちょうどよい	3.1%
時間が長く感じた	3.1%
説明の速さが遅い	3.1%
音声自体が聞き取りにくかった（音が途切れた）	3.1%
２回見てもらうのは負担だと思う	3.1%
その他	3.1%
計	100.0%

②「ハンドブック「「学校評価」とは？について」の結果と考察

この設問においては、23園から回答が得られており、意見・質問等の記述はのべ28個であった。これらを８のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３－１－６に示す。

研修２のハンドブックに関する意見については、割合の大きい順に、「内容がよかった」(39.3%)、「内容がよくなかった」(17.9%)、「今後も参考・活用していきたい」(14.3%)、「評価委員にも配りたい」(7.1%)、「DVDとは異なる目的で使用できた」(7.1%)、「DVDとあわせて使うことで効果が増した」(3.6%)、「DVDと同じ感想」(3.6%)、「その他」(7.1%)であった。

最も大きい割合であった「内容がよかった」というカテゴリーには、説明や補足が丁寧でわかりやすかったという意見や、学校評価をする理由がわかり勉強になったという、内容に対する肯定的な評価が理由と共に記述されていた。

次に大きい割合であった「内容がよくなかった」というカテゴリーには、文字が多かったり小さかったりするために、わかりにくかったという意見や、PDCAの順番に違和感があった等の意見が含まれていた。

その他、評価委員にも配りたいという意見や、今後も活用していきたいという意見も上位にみられ、ハンドブックに対する全体では肯定的評価が多いことがうかがえた。

表３-１-６　研修２のハンドブックに対する意見等の種類と割合

内容がよかった	39.3%
内容がよくなかった	17.9%
今後も参考・活用していきたい	14.3%
評価委員にも配りたい（もっと欲しい・増刷して配った）	7.1%
DVDとは異なる目的で使用できた	7.1%
DVDとあわせて使うことで効果が増した	3.6%
DVDと同じ感想	3.6%
その他	7.1%
計	100.0%

③DVDの後に園独自の内容として付加した内容の結果と考察

この設問においては、25園から回答が得られており、意見・質問等の記述はのべ38個であった。これらを10のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３-１-７に示す。

研修２のDVDを見た後に、園独自に付け加えた内容については、割合の大きい順に、「園について」(47.4%)、「学校評価・自己評価に対する園の意見・見通し」(18.4%)、「本調査に関する評価、委員会等についての進捗状況と今後の予定」(13.2%)、「園で現在行っている具体的な取り組みについて」(5.3%)、「これまでの園の取り組みへの振り返りと成果について」(2.6%)、「保護者に行ったアンケートについて」(2.6%)、「各クラスの環境の見学」(2.6%)、「地域の委員から、校区と付属学校のあり方について」(2.6%)、「評価委員から、学校評価についての意見」(2.6%)、「その他」(2.6%)であった。

最も割合の大きいカテゴリーは「園について」であり、研修１同様、自園の特徴について補足的に説明する園が多かったことがわかる。

また、学校評価に関する本プログラムについての意見や見通し、今後の委員会等の予定について話した割合も多かったことからは、プログラム中盤において、後半に向けて予定の確認をしたり、園としての見通しについて話したりすることが全体の流れの中で必要になってくることがうかがえる。

表３-１-７　研修２のDVDの後に園独自の内容として付加した内容の種類と割合

園について（教育理念・教育目標・特色・普段の活動内容等）	47.4%
学校評価・自己評価に対する園の意見・見通し	18.4%
本調査に関する評価、委員会等についての進捗状況と今後の予定	13.2%
園で現在行っている具体的な取り組みについて（体育活動等）	5.3%
これまでの園の取り組みへの振り返りと成果について	2.6%
保護者に行ったアンケートについて	2.6%
各クラスの環境の見学（実際に触れた）	2.6%
地域の委員から、校区と付属学校のあり方について	2.6%
評価委員から、学校評価についての意見	2.6%
その他	2.6%
計	100.0%

⑶　プログラム群：研修１・研修２の終了後、学校関係者評価会実施後の最終アンケート

研修１と研修２の実施後に、学校関係者評価が行われ、その後に最終アンケートを行った。最終アンケートを用いて、学校関係者評価委員や委員会について、またDVD等の各教材について回答を求めた。本アンケートは各幼稚園につき１枚配布しており、各園の学校関係者評価実施者が回答することとなっている。

本アンケートの設問は９つあり、設問3・5～８の５問には自由記述式の回答も含まれており、その分析に関してはカテゴリー化して結果を提示した。カテゴリー化の際には、１つの園においても複数の文章によって意見等を記述していたり、１つの文章に内容の異なる意見が記述されたりしていたことから、同じ回答者による記述でも、内容によって異なる別の意見として分類をした。本アンケートは25園から回答が得られた。以下、各設問の結果を示す。

①学校関係者評価委員の人数

各園において、学校関係者評価委員は平均で4.43名（標準偏差1.20）、一番少ない園は３名、一番多い園は８名であった。また、５名と回答した園が最も多かった（13園）。

②学校関係者評価委員会の開催時間

委員会が行われた時間帯について、開始時間は平均12時23分（標準偏差２時間56分）、一番早く行われた園は９時から、一番遅い時間に行われた園は18時30分からであった。また、10時

からと回答した園が最も多かった（10園）。終了時間は平均13時59分（標準偏差２時間44分）、一番早くに終わった園は10時30分に終わり、一番遅い時間に終わった園は20時に終わった。また、12時までと回答した園が最も多かった（４園）。委員会にかけられた時間は、平均１時間35分（標準偏差35分）で、最も短い園が１時間、最も長い園が３時間で、１時間と回答した園が最も多かった（９園）。

開始時間帯を、12時まで・12時から17時まで・17時以降と分けた場合に、12時までに開始した園が12園、12時から17時までに開始した園が10園、17時以降に開始した園は２園であった。

③学校関係者評価委員会の開催回数

この設問においては、「３回」「２回」「１回」「その他」の選択式によって回答を求めた。また、「その他」を選択した場合には自由記述式で、その内容の回答を求めた。その結果、学校関係者評価委員会の開催回数について、「３回」と答えた園が21園、「２回」、「１回」と答えた園が１園ずつ、「その他」と答えた園が２園あった。

「その他」と答えた２園は共に、「４回」開催したと答えており、アンケートを依頼する前に、学校評議委員会を開催したためだと記述していた。

④「どんなところ？幼稚園」のDVDを視聴後、付加した内容

この設問においては、「はい」「いいえ」の選択式によって回答を求めた。また、「はい」と回答した場合には、自由記述式でその内容の回答を求めた。

その結果、独自の内容を付け加えた園は22園、付け加えなかった園は３園であった。また、付け加えた独自の内容に関する記述はのべ31個であった。これらを６のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３－１－８に示す。

「どんなところ？幼稚園」のDVDを見せた後、園独自で付け加えたことついては、割合の大きい順に、「園についての説明」（65.6%）、「実際に保育をみてもらった」（18.8%）、「評価委員会の意義・役割についての説明」（6.3%）、「市の教育についての説明」（3.1%）、「この機会に昼食懇談会を実施した」（3.1%）、「その他」（3.1%）であった。

表３-１-８　「どんなところ？幼稚園」のDVDを見せた後、
園独自で付け加えたことの種類と割合

園についての説明（現状・重点目標・教育方針・園児の様子等）	65.6%
実際に保育をみてもらった（その日の保育・預かり保育）	18.8%
評価委員会の意義・役割についての説明	6.3%
市の教育についての説明	3.1%
昼食懇談会	3.1%
その他	3.1%
計	100.0%

最も割合の大きかった「園についての説明」というカテゴリーには、園の重点目標を話したという意見が多く、その他にも、園児の様子も含めた特色について話したという記述が含まれていた。

次に割合の大きかった「実際に保育をみてもらった」というカテゴリーには、研修当日の保育を参観してもらったという記述がほとんどであったが、中には預かり保育の様子を見てもらったという記述も含まれていた。

DVDの内容が幼稚園に関する内容であることからも、その内容を踏まえ、自園の具体的な説明を付け加えたり、実際に保育の様子を見てもらったりすることによって、改めて幼稚園について理解を深めてもらうという流れが多かったのではないかと考えられる。

⑤「学校評価とは？」のDVDの視聴後、付加した内容

この設問においては、「はい」「いいえ」の選択式によって回答を求めた。また、「はい」と回答した場合には、自由記述式でその内容の回答を求めた。

その結果、独自の内容を付け加えた園は15園、付け加えなかった園は９園であった。また、付け加えた独自の内容に関する記述はのべ25個であった。これらを６のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３-１-９に示す。

「「学校評価」とは？」のDVDを見せた後、園独自で付け加えたことついては、割合の大きい順に、「園についての説明」（48.0%）、「学校評価、学校関係者評価委員会についての説明」（16.0%）、「保護者へのアンケート・職員自己評価についての取り組みの説明」（12.0%）、「保育のビデオをみてもらった・保育参観」（8.0%）、「昼食懇談会」（4.0%）、「その他」（12.0%）であった。

表３-１-９　「「学校評価」とは？」のDVDを見せた後、
園独自で付け加えたことの種類と割合

園についての説明（現状・重点目標・園内環境・年間行事・計画・園児の様子等）	48.0%
学校評価、学校関係者評価委員会等についての補足説明	16.0%
保護者へのアンケート・職員自己評価についての取り組みの説明	12.0%
保育のビデオをみてもらった（その日の午前中の活動を撮ったものを、午後の委員会で見てもらった）・保育参観	8.0%
昼食懇談会	4.0%
その他	12.0%
計	100.0%

最も割合の大きかった「園についての説明」というカテゴリーには、重点目標や年間計画の他に、園内の環境について説明をしたという記述が多く見られた。この点は、「どんなところ？幼稚園」DVDを見せた後は異なるところであった。DVDが学校評価に関する内容であったことから、園の設備や環境構成等の説明も学校評価の際には必要だと感じた園が多かったと考えられる。

次に「保護者へのアンケート・職員自己評価についての取り組みの説明」というカテゴリーの割合の大きかったのも、学校評価をされるに当たって、自園独自の評価等の取り組みを説明しておく必要があると考えた園が多かったからであろう。

⑥学校関係者評価委員の意見の聴取方法

この設問においては、「委員の話し合いを園側が聞き取ってまとめた」「自己評価書を作成し、それを見せて、自由に文章を書いてもらった」「自己評価書を作成し、その項目に応じて、評定方式（そう思う・どちらとも言えない・そう思わない等）で書いてもらった」が３園、「自己評価書を作成し、その項目に応じて、評定方式（そう思う・どちらとも言えない・そう思わない等）で書いてもらった」「その他」の選択式で回答を求めた。また、「その他」と回答した場合には、自由記述式でその内容の回答を求めた。

その結果、学校関係者評価の方法について、「委員の話し合いを園側が聞き取ってまとめた」が14園、「自己評価書を作成し、それを見せて、自由に文章を書いてもらった」が３園、「自己評価書を作成し、その項目に応じて、評定方式（そう思う・どちらとも言えない・そう思わない等）で書いてもらった」が３園、「その他」が４園であった。

「その他」と回答した園の方法に関する記述はのべ10個であった。それらを６のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３-１-10に示す。

「その他」の学校関係者評価の方法については、割合の大きい順に、「自己評価項目を基に

して話し合ったり、意見を書いてもらった」(50.0%)、「保護者評価シート項目を基にして話し合った」(10.0%)、「(幼稚園独自に行った) 保護者からの評価を基に話し合った」(10.0%)、「(資料を基にせず) 自由に話し合った」(10.0%)、「幼稚園の取り組みを見てもらい、さらにその成果を口頭で説明し、その後、自由に文章で書いてもらった」(10.0%)、「その他」(10.0%) であった。

「自己評価項目を基にして話し合ったり、意見を書いてもらった」という方法は、園側として負担が少なく、やりやすかったものだと予想される。また、表中のいくつかの方法を独自に組み合わせたという内容の記述もあった。

全体としては、評価を書いてもらう方法よりは、話し合う方法の方が多くみられ、基にする資料やまとめ方は園それぞれにしろ、評価委員が自由に話し合うという方法が最も典型的であることがうかがえる。

表３-１-10　学校関係者評価の方法の種類を割合

自己評価項目を基にして、話し合ったり、意見を書いてもらった	50.0%
保護者評価シート項目を基にして、話し合った	10.0%
(幼稚園独自に行った) 保護者からの評価を基に話し合った	10.0%
(資料等を基にせず) 自由に話し合った	10.0%
幼稚園の取り組みを見てもらい、さらにその成果を口頭で説明し、その後、自由に文章で書いてもらった	10.0%
その他	10.0%
計	100.0%

⑦その他

この設問においては、プログラム全体に対する意見等を自由記述形式で求めた。意見等の記述はのべ54個であった。これらを13のカテゴリーに分類した。各カテゴリーとそれらの記述の割合を表３-１-11に示す。

全体に対する感想の他、各教材や評価委員についての感想も含まれており、最も割合の大きかったのは、プログラムに対して「意義があった」というカテゴリーであった(31.5%)。その理由として具体的に挙げられていたのは、「これからの取り組みに生かせる」、「振り返るいい機会だった」、「自分の力量を問い直した」というような意見であった。DVDやハンドブックに対する肯定的な意見もあり (「(DVDやハンドブックについて) よかった」: 11.1%)、これらの教材に対する肯定的な評価が、プログラム全体に対する意義につながっている可能性もある。

一方で、「評議委員の日程調整が大変だった」(7.4%)、「提出期限が厳しかった」(1.9%)

という、スケジュールへの否定的意見もみられた。これらの具体的な記述は、２番めに「時間的、金銭的負担が大きかった」（14.8%）と感じた園の割合が大きかったことの背景として捉えられ、プログラムの内容とは別に、プログラムを遂行していくなかで何らかの負担を感じた園が多かったということがわかる。

表３-１-11　プログラム全体に対する意見等の種類と割合

意義があった		31.5%
時間的、金銭的負担が大きかった		14.8%
DVDやハンドブックについて	よかった（効果的だった・話し合いの材料となった・理解しやすかった等	11.1%
	よくなかった（内容が物足りなかった・理解しにくかった・長かった等）	9.3%
評議委員の日程調整が大変だった		7.4%
評価委員会の開催について	委員の選出が難しかった	3.7%
	何度も会議に集まってもらうこと自体に懸念があった	3.7%
この調査のような活動内容を継続したい		3.7%
調査全体について改善点がある（もっと楽しくやりたい・DVD視聴後の取り組み		3.7%
提出期限が厳しかった		1.9%
アンケートが理解しにくかった		1.9%
思ったほど負担ではなかった		1.9%
その他		5.6%
計		100.0%

⑧「来年度に入りまして、各園を対象に学校評価の実施状況のアンケートを予定しております。ご協力いただける場合には以下の（　）に○をつけてください」の結果について

上記の設問の結果、次年度に行われるアンケート調査に協力してもいいという園は25園中、５園であった。

〔全体考察〕

設問８の結果を見てもわかるように、プログラム全体や各教材に対する肯定的意見が多く挙げられていた。

しかし、時間的な負担を感じたという否定的な意見も少なくなかった。設問９において、次年度に行われるアンケート調査に協力してもいいと回答した園が25園中５園であったことにも、負担に対する懸念がうかがえる。いかに園側が感じる負担を減らし、調査に協力してもらうかが課題として浮かび上がってきた。そのためには、本アンケートで質問した、評価委員の人数や委員会の開催時間等の結果をもとにしてどの程度が園としてやりやすい範囲であるのかを見い出し、適切な進め方をある程度の目安として提案するか、あるいは柔軟性を重視して園に判断して進めてもらうのか、方法などを検討していく必要があるだろう。

〔園の実情を反映した学校関係者評価の実施に向けて〕

今後の教材およびプログラムの意義と課題を明らかにするために、学校関係者評価実施者へのアンケートを作成し、研修プログラムの実施に際して、DVDの視聴後に、園としてどのような内容を加えたのかについて尋ねた問いから考察する。

幼稚園のDVDを見せた後、園の教員が付け加えたことは、園の現状や重点目標、教育方針や園児の様子、保育の実際や預かり保育の実際など園独自の内容や、市の教育についての説明という、近隣地域に関する内容であった。

また、学校評価のDVD視聴後には、やはり、上記に述べた園独自の内容および、保護者のアンケートや教職員による自己評価についての取組み、その園の保育のビデオなど、様々な工夫がなされていた。また、両研修では、昼食懇談会を入れた園も若干あった。

基本をDVDで示すことにより、それぞれの園で工夫がなされ、基本を踏まえながらも園独自のプログラムを構成し、実施できていたといえる。

（岩立京子）

２．今後の学校評価の実施に向けて

⑴　学校評価の実施における教育委員会の役割

栃木県幼児教育センター・副主幹　**永井　弘美**

①教育委員会において学校関係者評価をどのようにとらえるか。≪現状と課題≫

〇幼稚園における学校評価についてのガイドラインが国から示され、自己評価については前向きに取組がなされているが、学校関係者評価については、なかなか実施に踏み切れない幼稚園も少なくない現状が、今回明らかになった。

〇その背景には、以下のような幼稚園側の実態がある。

・規模が小さく、教職員の数に余裕がないため、園務分掌に位置づけることが難しい。
・義務教育ではないため、就園希望の有無がそのまま幼稚園に対する評価であり、その時点ですでに外部から評価されているととらえている。
・長年培ってきた教育の理念があり、実績があるので、あまり必要性を感じない。
・学校関係者評価の定義が難しく、理解しにくい。
・実施するよさが実感できない。

〇実施の際には、委員は何人か、どのような人を選んだらよいのか、その基準は何かなど、細かな点での悩みが出された。本調査の結果では、委員数３～５人、委員の構成は、保護者や地域の役員、卒園生から、学識経験者や近隣の小学校長まで、様々な実態が明らかになった。また、頼みやすい方にお願いしたという本音もでている。

〇幼稚園としては、現在の園運営がおおむね満足のいくものであれば、学校関係者評価委員を入れて、園運営に余計な口出しをされたくないというのが本音のところではあろう。それでも、学校関係者評価への第一歩を踏み出したという点では成果といえるのではないだろうか。

　しかし、幼稚園の設置者である教育委員会としては、自治体にある公立幼稚園としての今後の在り方を見据え、そのうえで学校関係者評価をどのように活かしていくのかを考えていく必要がある。それによっては、どのような方を委員として選定するのか、その方々にどのように情報を提供し、どのような役割を担っていただくのかなどの点で、実施・活用のシナリオが大きく変わることになる。

〇以上のような現状や課題を踏まえ、学校評価が各幼稚園の創意工夫を生かした継続的な取組になるために、設置者である教育委員会は、幼稚園をどのような形でサポートしていけるのか、本研究で作成した資料をどのように生かしていけるのかについて、調査結果や実践事例などから明らかになってきたことを述べたい。

②作成資料の活用と工夫・改善について

〇評価委員の選定や委員会の回数、開催時間、自己評価結果の提出の様式など、細かな点での

疑問は多い。教育委員会では、その疑問に一つ一つ答えていく丁寧なサポートが望まれる。そのためには、幼稚園が活用できる資料等の収集や保管、提供、ときには資料の開発が必要である。幼稚園が何に困っているのか、何を必要としているのかを把握すると共に、都道府県教育委員会との連携も有効であろう。

○本研究で作成したDVDや資料、ガイドブック等の教材については、幼稚園教育の基本や学校評価の意義についてを共通理解できる基本的な資料となっている。実践事例からも、この資料を活用することによって、学校関係者評価の意義について啓発できた、幼稚園の実施に係る負担を軽減できたなど、有用性が実証されている。

しかし、これらはいわゆる一般的な内容を記載したものであるので、幼稚園が使いやすいものにするためには、幼稚園の実態を把握している設置者としての教育委員会が内容を精査し、実施時期や活用の方法などを自治体の実情に合わせて変えていくことも必要であることが明らかになった。

○秦野市教育委員会や協力園での事例などから、本研究で作成した資料については、教育委員会において次のような工夫が可能ではないかと考える。

・資料を各委員分コピーして、自宅でも繰り返し使用できるようにする。
・DVD教材の内容を実態に応じて短縮するなどし、評価委員の負担の軽減を図りながら、幼稚園教育や学校評価についての理解・啓発を徐々に図っていく。
・各幼稚園の実態に応じたものにするためには、各園の特色や重点項目、園児の様子等について、園長等に補足をお願いする。
・２本のDVD教材については、実態に応じどちらを先に使用するかを検討する。
・場合によっては、幼稚園教育の専門的な用語についての解説集などを作成する。
・学校関係者評価委員のみならず、幼稚園の教職員にも同じ資料を用い研修や啓発を行い、共に幼稚園運営の改善や教育の向上を目指すという協働の意識を育てる。

③実施への取組と活用に向けて

○学校評価の取組は、学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の保証と向上を図ることを目的として行われるものであるので、幼稚園の教職員に学校評価の重要性についての理解啓発を図ることが必要である。

しかし、いかに重要であると理解しても、一歩踏み出すには、幼稚園がその必要性を感じ、納得していくことが求められる。協力園のアンケートや実践事例からも、その一歩がなかなか踏み出せず悩んだという実態がうかがえる。

その一歩を可能にするためには、教育委員会が推進園の実践と成果を発信し、啓発を図る、あるいは秦野市教育委員会の事例ように、モデル園を指定し教育委員会と協働で取り組むなどの方法が考えられる。

○さらに、教育委員会が推進園、モデル園での実践をどのように発信し、広がりをつくっていくか。そのためには、生の声を出し合う機会をつくることが大切である。

各幼稚園が集まり、疑問や悩みを率直にディスカッションする機会、成果や課題を実践者の言葉で語り共有していく機会などをつくることで、各幼稚園の課題が自治体として共有され、まずできることからやってみようという意欲を支えていくことができると考える。

④地域の関係機関や人材のネットワーク化について

○設置者である教育委員会は、学校評価の実施に関する幼稚園の様々な疑問に細かく答えていく一方で、特に学校関係者評価に関しては、自分の園の教育活動の改善にどのような形で活かしていけるのかを広い視野で示していくサポートの在り方も必要となる。学校関係者評価委員会は、豊かな専門性をもった地域の方々の意見が生の声で聞ける機会であり、さらに、その方々が幼稚園の取組やよさについて地域に発信してくれるという関係の構築が可能である。

○本研究の協力者のアンケートにおいて、本研究で作成した「どんなところ？幼稚園」のDVDを使った研修の後、学校関係者評価委員の幼稚園教育に関する理解がどのように変化したかを見ると、幼稚園が学校であることや、幼稚園の特徴などをより理解でき、幼稚園や先生方への親しみが深まったことなどが読み取れる。

また、本研究に協力してくれた幼稚園の評価委員に卒園生が多く、幼稚園のよさを発信して、理解者や支援者を地域に求めたいという幼稚園の願いもうかがえる。

○少子化や共働き家庭の増加等により、公立幼稚園の存続の危機がささやかれるようになった。しかし、地域に根ざした地域の学校は、その卒業生、卒園生の学校に対する愛着に支えられ存在している。

教育委員会は、このような学校関係者評価委員の親和性の深まりや幼稚園の願いが、地域にとってどのような意味をもつのかを分析し、地域にある公立幼稚園運営の改善・発展に役立てることが求められる。

⑤継続的な実践に向けて

○学校評価の取組は、改善を重ねながら継続していくことが大切である。そのためには、幼稚園が変わった、理解者が増えた、地域との連携が図れたなど、やってよかったという実感を伴った啓発を図ることが重要である。

それには、さまざまなモデルを示す、教材を提供する、自治体としてのガイドラインを示すなどの情報・資料の収集や提供はもとより、各幼稚園が実践を通して、自園の教育の在り方を明確にし発信するよさと、できることから始め改善を重ねることの意義を実感できるよう、認め励ましていくことである。

園の悩みを聞く、実態を知る、園の取組に直接かかわる、園と地域をつなぐ、実践者を育てるといった一連の、きめ細かな支援が望まれている。

（永井弘美）